

豊かに快適な環境を求めて・・・



爽やかな笑顔、
真心のサービス

2025年度環境経営レポート

2025年4月～2026年3月



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



～ 目 次 ～

1. 社是・経営方針・環境方針

2. 組織の概要

- ◆事業者名及び代表者氏名
- ◆事業所所在地
- ◆環境管理責任者及び担当者連絡先
- ◆創業（設立）年月日
- ◆資本金
- ◆認証・登録範囲
- ◆事業の規模
- ◆実施体制

3. 環境経営目標とその実績

- 3－1. 環境負荷の現状（令和7年度環境負荷自己チェック結果より）
- 3－2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況及び翌年度の目標
- 3－3. エコアクション21環境経営目標・中長期環境目標について

4. 環境経営計画と取組結果

5. 指定管理施設の環境負荷について

6. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無

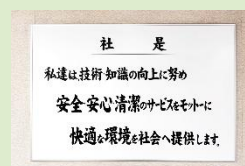
- 6－1. 適用となる環境関連法規等とその遵守状況
- 6－2. 法令違反・訴訟等の有無

7. 代表者による見直しの結果

1. 社是・経営方針・環境経営方針

社是

私達は、技術・知識の向上に努め
安全・安心・清潔のサービスをモットーに
快適な環境を社会へ提供します。



経営方針

私達は お客様感動を達成します

私達は 事故ゼロを継続します

私達は 不祥事案を撲滅します

私達は 環境方針を推進します

環境経営方針

【環境理念】

私達は、ふるさとの豊かな環境を守り、持続可能な社会の実現を目指すため、環境マネジメントシステムの継続的な運用改善を図り、自らの環境負荷を可能な限り削減していくとともに、総合ビル管理、警備、指定管理等の業務を通じて、「安全・安心・清潔」に関する技術と真心サービスを提供しつつ、お客様の環境負荷の削減にも寄与してまいります。

【環境行動指針】

1. 環境関連法規等を遵守します
2. 電力使用、化石燃料の消費に伴い発生する二酸化炭素を計画的に削減していきます
3. 廃棄物を可能な限り削減するとともに分別を徹底し、リサイクル率の向上に努めます
4. 節水に努め、水資源を大切にします
5. 化学物質の使用量を削減していきます
6. 社員のスキル向上により、業務の効率化を図り、他社との差別化を図ります
7. お客様の環境負荷削減につながる提案を積極的に行い、可能な範囲で実践します
8. 地域の環境保全活動に貢献します

制定日：平成28年6月1日
最終改定日：令和7年6月1日

株式会社イービーエム
代表取締役社長 斎藤 正則

2. 組織の概要

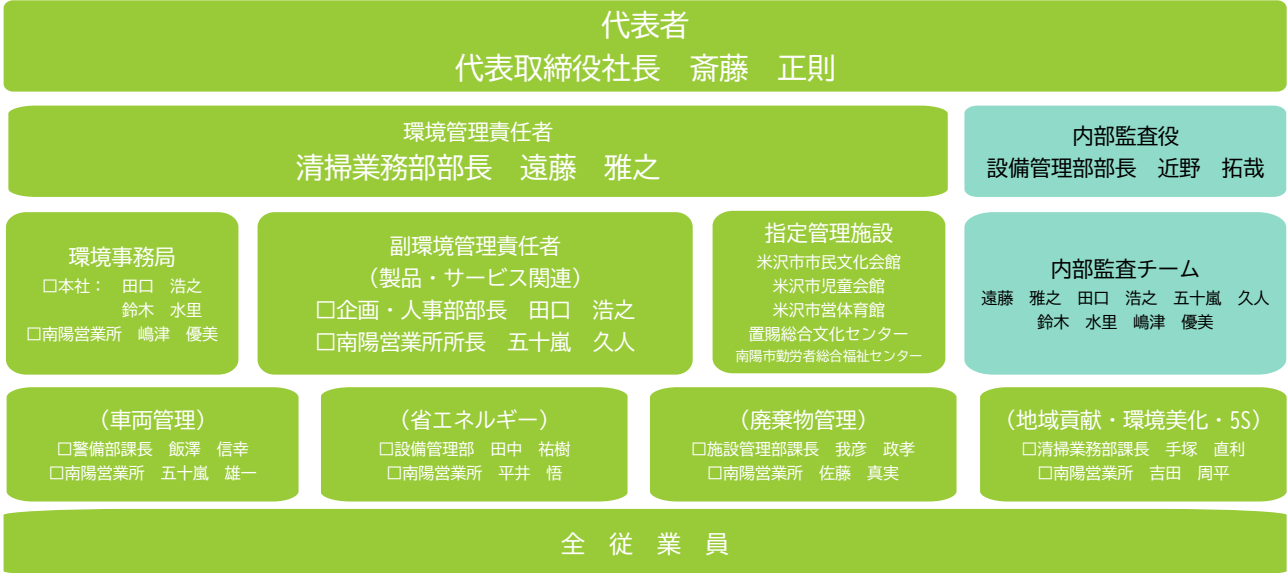
事業所名	株式会社イービーエム	
代表者	代表取締役社長 斎藤 正則	
所在地	本社 〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田584-2 南陽営業所 〒992-0472 山形県南陽市宮内4641	
環境管理責任者	清掃業務部部长 遠藤 雅之	
担当者/連絡先	企画・人事部部長 田口 浩之 TEL 0238-37-5733 FAX 0238-37-2822	
資本金	1,000万円	
創業（設立年月日）	1968年（昭和43年）9月25日	
認証・登録範囲	対象サイト：本社ならびに南陽営業所、指定管理施設	
事業概要	警備業務（機械警備・常駐警備等）、清掃業務（日常清掃・定期清掃等） ビル総合管理業務（設備管理・環境衛生管理等）、指定管理業務	
沿革	昭和43年9月	株式会社オールビルマネジメントとして創業ビルメンテナンス業としては県内2番目。その後、警備保障部、設備管理部を設け、米沢市市民文化会館の舞台操作業務を開始
	平成3年8月	株式会社イービーエムに改称し、現在地に移転
	平成5年7月	南陽市宮内に南陽営業所を開設
	平成18年4月	米沢市市民文化会館指定管理業務開始
	平成27年9月	イービーエムエナジー合同会社を設立し、メガソーラーによる再生可能エネルギー事業を開始
	平成28年12月	エコアクション21認証登録（登録番号0011545）
	平成31年2月	環境コミュニケーション大賞優良賞を受賞
	平成31年4月	山形大学白楊寮維持管理運営業務開始
	令和元年6月	「山形県環境保全推進賞」を受賞
	令和3年3月	健康経営優良法人2021に認定（2026継続認定）
	令和3年4月	自社生成する強アルカリイオン電解水「楽落水」として商標登録し販売を開始
	令和6年12月	エコアクション21更新完了

事業規模・対象範囲（認証・登録範囲）

事業年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
事業規模								
売上高（千円）	826,570	847,513	832,691	901,540	925,291	938,070	995,048	1,098,431
認証対象従業員数 /全従業員数	280/280	280/280	270/270	270/270	270/270	270/270	270/270	270/270
従業員数：本社	38	38	38	38	44	44	44	42
従業員数：南陽営業所	7	7	7	5	5	5	9	9
床面積（㎡） ：本社	303.9							
床面積（㎡） ：南陽営業所	101.8							

※売上高は、当社会計年度（4～3月）に合わせて集計しています。従業員数は各年度4月時点での在籍数です。
従業員数には、業務受託現場に直行直帰する従業員は含まれていません。

実施体制（令和8年6月～）

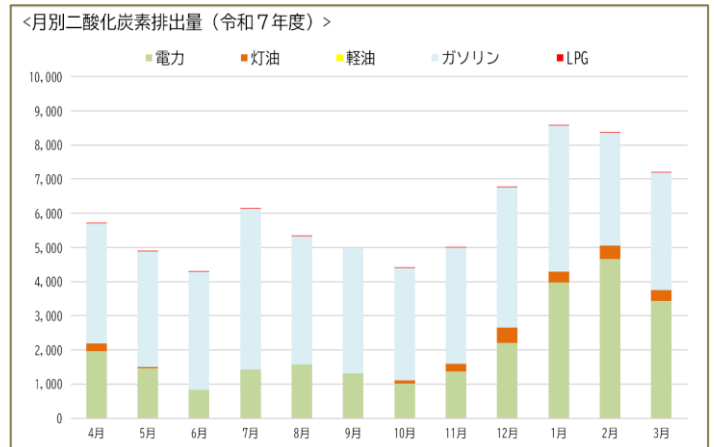
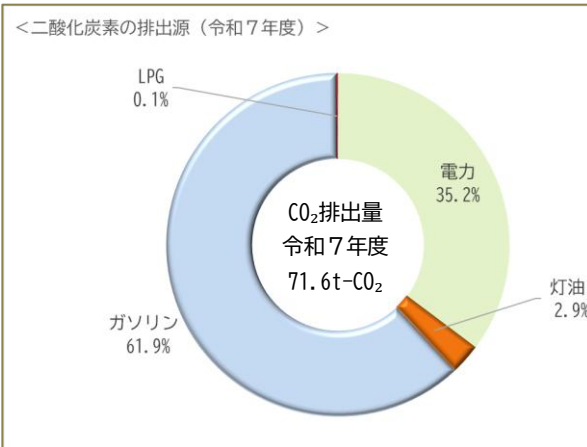


	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者（現場環境管理責任者）を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・効果的で必要十分な実施体制を構築する ・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする ・環境活動レポートの承認
内部監査役	・内部監査チームを組織して、適切に内部監査を実施する ・監査の結果を代表者及び環境管理責任者に報告する ・内部監査員の教育を実施する
内部監査員	・内部監査役の指示により、中立的な立場で、対象となる部門の内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性について評価し、記録を作成し、内部監査役に提出する
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境目標・環境活動計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの作成・発行
副環境管理責任者	・環境管理責任者を補佐する ・それぞれの所轄（本社・南陽営業所）の環境の取組を管理する
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境目標、環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
EA21推進委員会	・定期（四半期ごと）又は環境管理責任者の招集により開催する ・推進委員会のメンバーは、正副環境管理責任者、環境事務局とし、そのときの審議事項の内容によって、代表者、内部監査役の出席を仰ぐ ・委員会の議題は、環境目標の達成状況、環境活動計画の取組状況、環境関連法規の順守状況、環境上の苦情や緊急事態への対応、内部監査の結果や審査人からの指摘事項への対応、その他、環境管理責任者が 必要と判断した事項とする ・審議の結果に基づき、適切な是正予防処置を定め、関係者に指示する
部門責任者 ■製品・サービス関連 ■車両管理 ■省エネルギー ■廃棄物管理 ■地域貢献・環境美化・5S	・関連する環境目標ならびに環境活動計画の設定ならびに改訂の提案 ・環境活動計画の取組状況の監視ならびに指導 ・環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申 ・環境負荷削減につながる改善提案ならびに情報収集 ・取組に必要な手順書・マニュアル等の整備 ・取組に必要な環境教育の企画と実施 ・その他、担当部門の目標達成に必要な事項
施設環境管理責任者	・施設内の環境の取組を管理する ・施設内における環境負荷の削減に向けた目標と活動計画の提案 ・環境負荷データの取りまとめと報告 ・環境目標の達成状況に応じた是正策予防策の提案と実施または目標の見直しの具申
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

3. 環境経営目標とその実績（本社及び南陽営業所）

3-1. 環境負荷の現状（令和7年度環境負荷自己チェック結果より）

■ 二酸化炭素排出量



※電力使用に係る二酸化炭素排出係数については、R5年度東北電力（調整後：0.402）を用いています。

1）当社の令和7年度におけるCO₂排出量は合計71,695kg-CO₂となり、前年度比で3.9%の減少となりました。これは、平均的な一般家庭約29軒分の年間CO₂排出量に相当します。（令和5年度世帯平均年間排出量2,47t-CO₂ 出典：家庭部門のCO₂排出実態統計調査〔環境省〕）

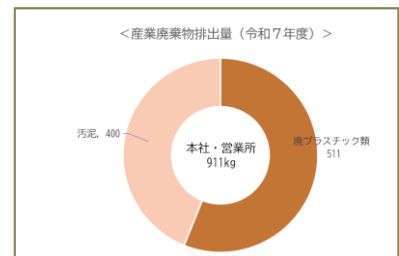
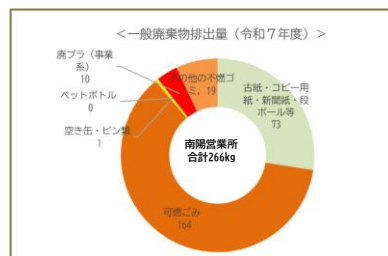
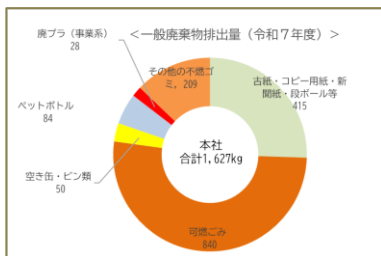
2）当社から排出されるCO₂のうち、61.9%はガソリン消費による44,357kg-CO₂（前年比4.6%減）であり、次いで電力使用に伴う排出が35.2%、25,217kg-CO₂（同0.9%増）、灯油消費に伴う排出が2.9%、2,063kg-CO₂（同33.4%減）となっています。

3）ガソリンは業務用車両の運行に伴い消費され、電力は事務所の照明、冷暖房、消雪用井戸ポンプの稼働に使用しています。また、LPGは事務所の給湯に使用しています。

4）月別のCO₂排出量は、12月から3月の冬期間（降雪期）に多くなっています。これは灯油消費量の増加に加え、消雪用ポンプ稼働に伴う電力使用量が増加するためです。さらに、令和7年度からは従業員の休憩場所として本社屋外プレハブを開放しており、エアコン稼働が増えたことで電力使用量が増加しています。

5）以上のことから、車両運行に伴うガソリン使用量の削減、冬期間の暖房使用の適正化、消雪用ポンプ稼働に伴う電力使用量の削減などが、当社における重点的な取組課題となります。

■ 廃棄物排出量



1）一般廃棄物については、可燃ごみや紙類（資源回収対象）などを行政の分別ルールに従い、本社・南陽それぞれで排出量を把握したうえで適切に処理しています。本社では可燃ごみが最も多く840kg、次いで紙類（再生資源）が415kgとなりました。南陽営業所では可燃ごみが164kg、紙類が73.0kgなどとなっています。なお、リサイクル率は本社35.5%、南陽31.5%でした。

2）産業廃棄物については、廃プラスチックが511kgで最も多く、次いで汚泥（ワックス剥離液・洗剤廃液等）が400kgとなりました。

■ 総排水量（水使用量）

本社・南陽ともに融雪用として地下水を利用していますが、その使用量は把握できていません。水道水については、すべて生活用水として使用しており、本社・南陽を合わせた年間使用量は465m³でした。これは前年比で5.8%の減少となります。なお、放流先は本社は公共用水域（浄化槽）、南陽は下水となっています。

■ 化学物質使用量（購入量）

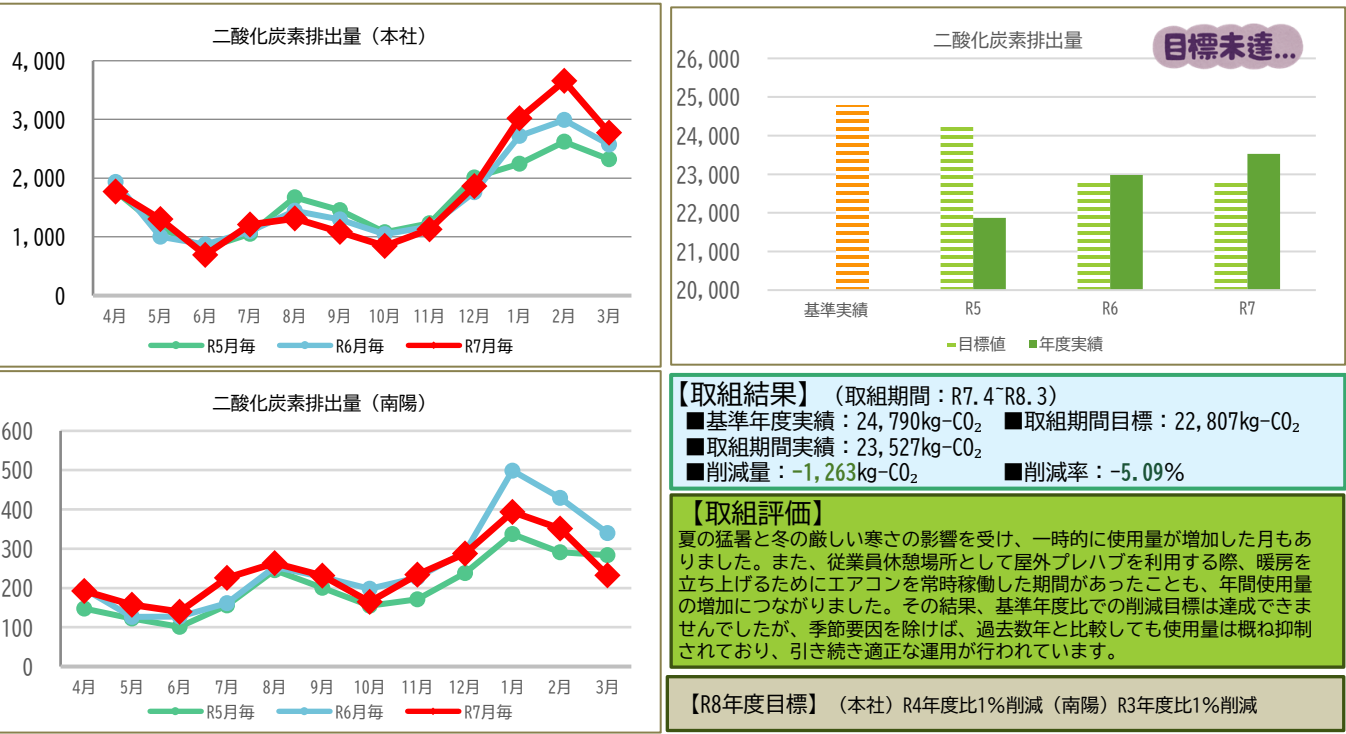
清掃業務で使用する洗剤や剥離剤については、以前はPRTR成分を含有する製品を使用していましたが、現在はPRTR成分を含有する洗剤および剥離剤は一切使用していません。

3-2. 環境経営目標（単年度・中期）と達成状況

環境経営方針との整合性を図りながら、環境負荷の自己チェックの結果を踏まえ、6項目（二酸化炭素、廃棄物、水、化学物質、製品・サービス関連）について、環境目標（単年度目標&5年間の中期目標）とその達成に向けた環境活動計画を策定し、取組を行いました。達成状況は下記のとおりです。

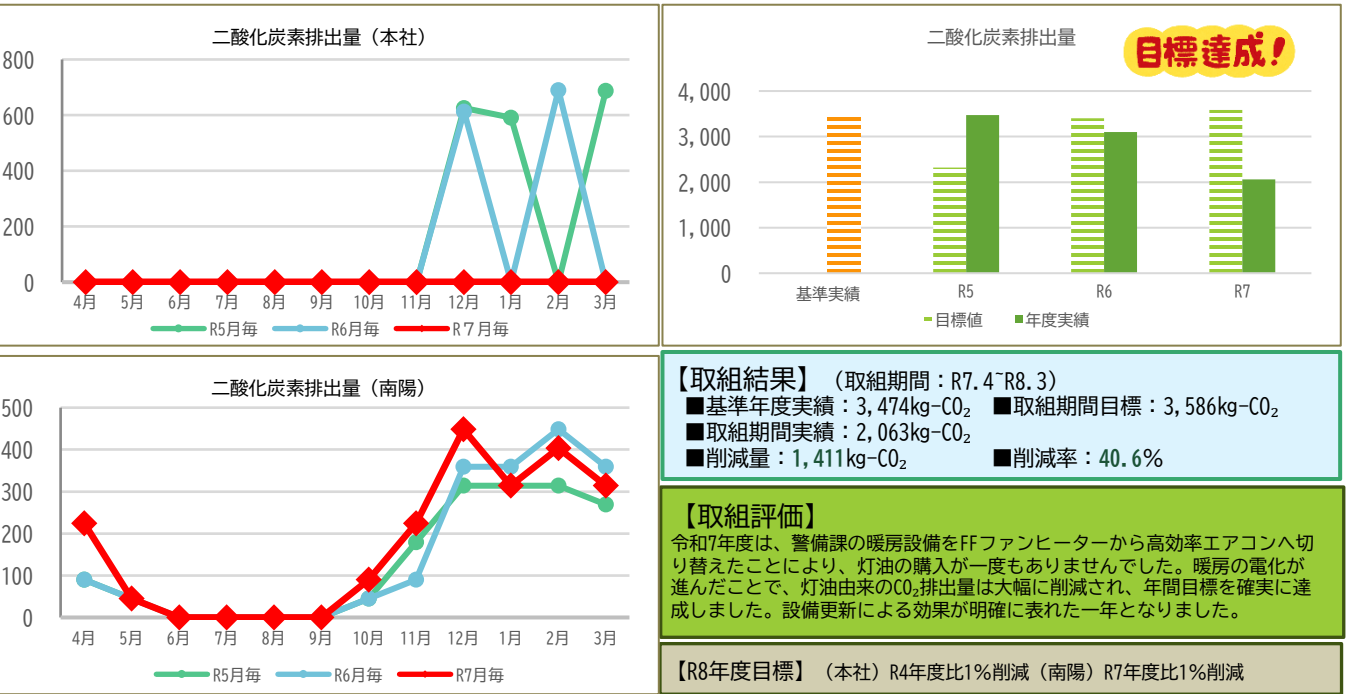
■ 二酸化炭素排出量（電 力）

【R7年度目標】	（本社）R3年度比8%削減（南陽）R3年度比8%削減
【中期目標（R3～R7）】	（本社）R3年度比8%削減（南陽）R3年度比8%削減



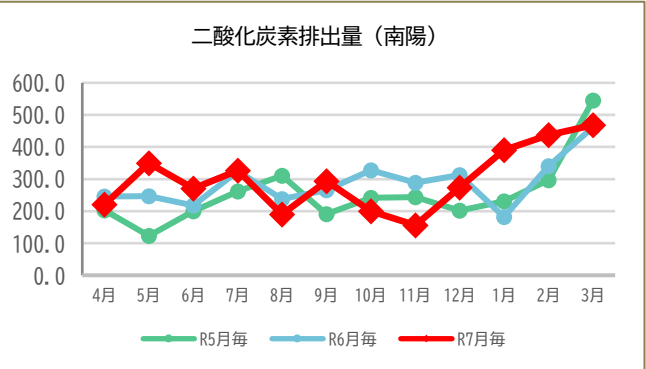
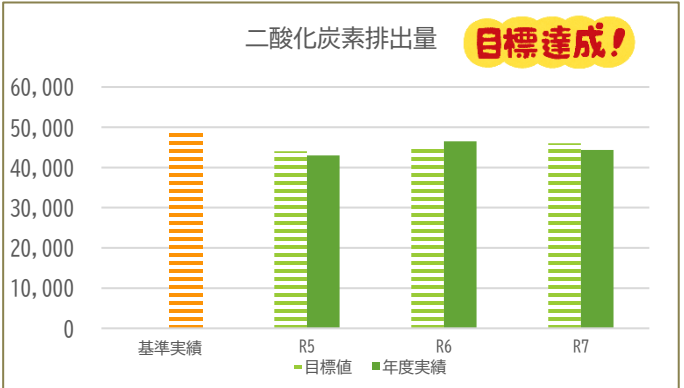
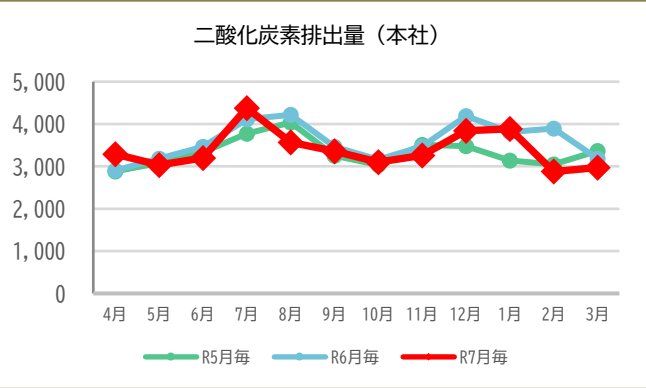
■ 二酸化炭素排出量（灯 油）

【R7年度目標】	（本社）R5年度比4%削減（南陽）R6年度比2%削減
【中期目標（R3～R7）】	（本社）R5年度比4%削減（南陽）R6年度比2%削減



■ 二酸化炭素排出量（ガソリン）

【R7年度目標】（本社）R3年度比9%削減（南陽）R3年度比8%削減
【中期目標（R3～R7）】（本社）R3年度比9%削減（南陽）R3年度比8%削減



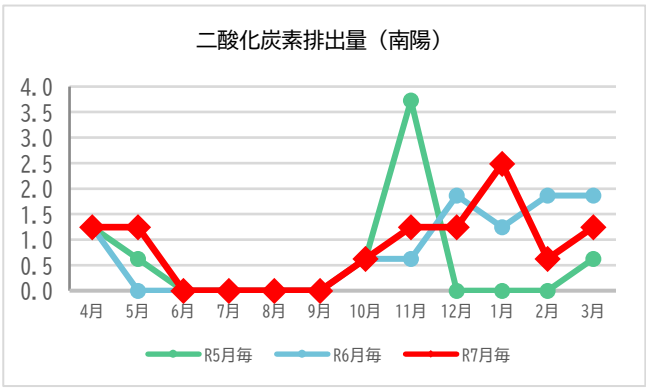
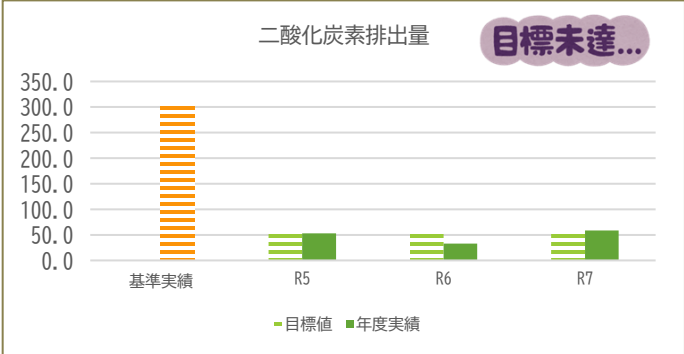
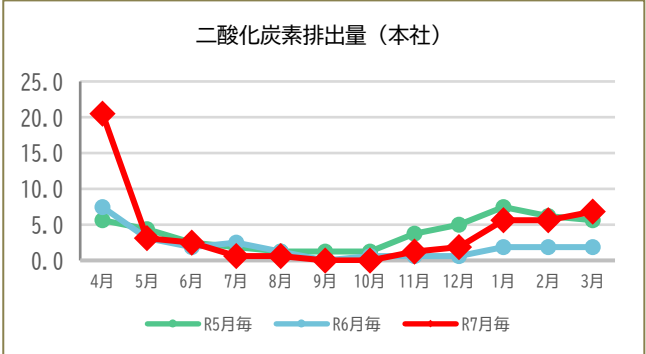
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：49,282kg-CO₂ ■取組期間目標：46,031kg-CO₂
■取組期間実績：44,357kg-CO₂
■削減量：4,925kg-CO₂ ■削減率：9.9%

【取組評価】
業務車両の入れ替えを計画的に進めた結果、ハイブリッド車の導入が増え、燃費向上による削減効果が年間を通じて現れました。特に冬季は降雪量が少なかったこともあり、2月の使用量が例年より抑えられました。これらの取り組みにより、基準年度比での年間削減目標を達成することができました。車両更新はCO₂削減に大きく寄与しており、今後も継続的な効果が見込まれます。

【R8年度目標】（本社）R6年度比1%削減（南陽）R3年度比1%削減

■ 二酸化炭素排出量（LPG）

【R7年度目標】（本社）H27年度比77%削減維持（南陽）H27年度比85%削減維持
【中期目標（R3～R7）】（本社）H27年度比77%削減維持（南陽）H27年度比85%削減維持



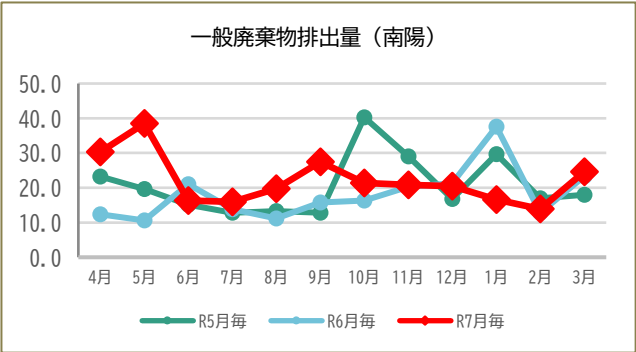
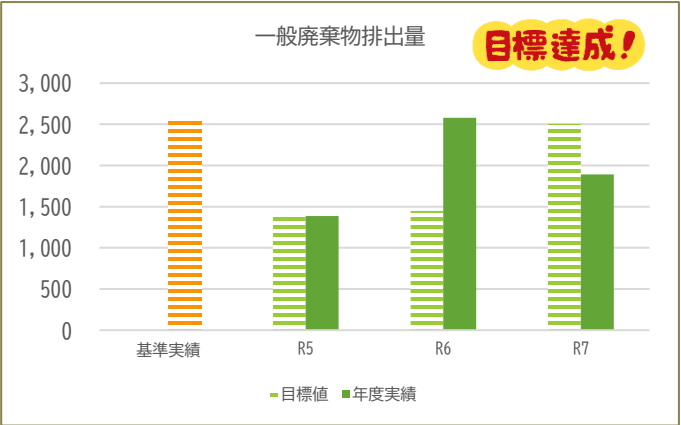
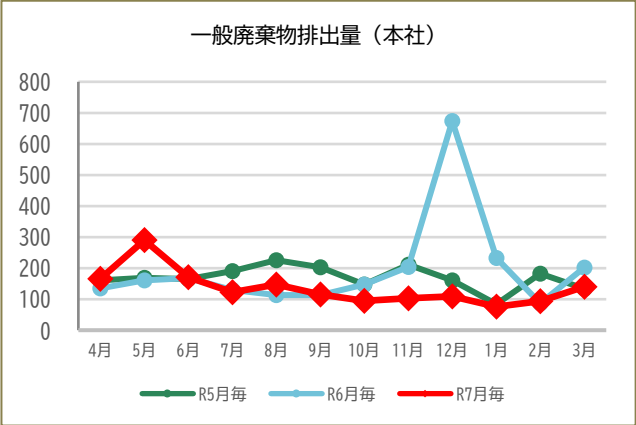
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：308kg-CO₂ ■取組期間目標：57.1kg-CO₂
■取組期間実績：58.4kg-CO₂
■削減量：249.6kg-CO₂ ■削減率：81%

【取組評価】
LPGは、年間を通じて使用量がごく少ない状態で推移しましたが、4月に元栓の締め忘れが一部で発生したことにより、月間使用量が高くなりました。この影響が年間値にも残り、最終的には削減目標を達成することができませんでした。ただし、春以降は使用量が安定しており、元栓管理の徹底により改善が期待できる状況です。

【R8年度目標】（本社）令和7年度比1%（南陽）令和3年度比1%削減

■ 一般廃棄物排出量

【R7年度目標】（本社）R3年度比3%削減→R6年度4%削減（南陽）R5年度比4%削減
【中期目標（R3～R7）】（本社）R3年度比4%削減（南陽）R5年度比4%削減



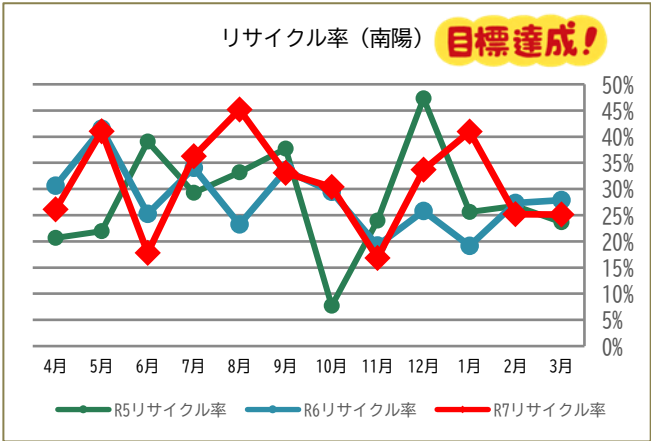
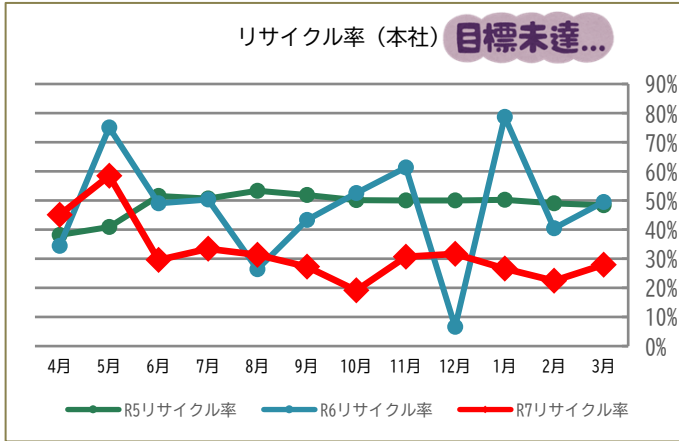
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：2,580kg ■取組期間目標：2,507kg
■取組期間実績：1,895kg ■削減率：26.6%
■削減量：685kg

【取組評価】
令和7年度は、年間を通じて一般廃棄物の排出量を適切に管理し、例年と同程度の水準で推移しました。可燃ごみは季節や業務量に応じて増減が見られたものの、全体として大きな増加はなく、分別の徹底により排出量の抑制が図られています。社員の分別意識が定着しており、適正処理が継続して行われた一年となりました。

【R8年度目標】 本社：R6年度1%削減 南陽：R4年度1%削減

■ リサイクル率

【R7年度目標】（本社）36%（南陽）29%
【中期目標（R3～R7）】（本社）36%（南陽）29%



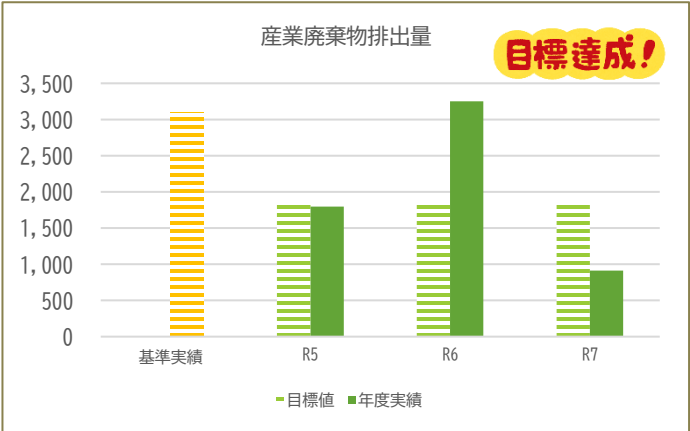
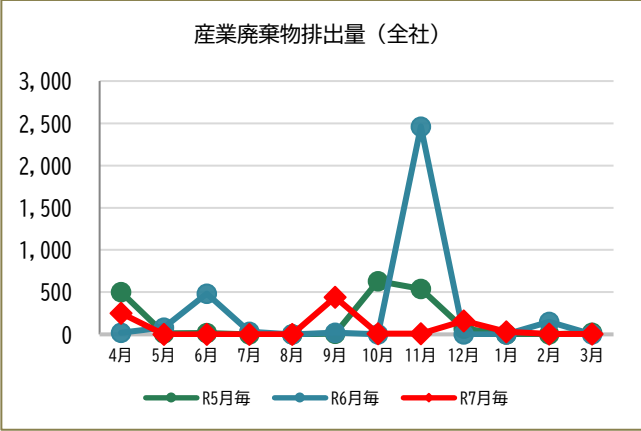
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■取組期間目標：本社：36% 南陽：29% ■取組期間実績：本社：35% 南陽：31%

【取組評価】
古紙・段ボール・空き缶・ペットボトル・廃プラスチックなどのリサイクル資源は、年間を通じて安定して排出され、リサイクル率も概ね例年並みに維持されました。特に本社では、紙類の分別が継続的に行われており、リサイクル量の確保につながっています。南陽営業所でも、廃プラスチックや不燃物の分別が着実に実施されており、全社的にリサイクル意識が浸透していることが確認できました。

【R8年度目標】 本社：令和3年度リサイクル率から1pointアップ 南陽：令和5年度リサイクル率から1pointアップ

産業廃棄物排出量

【R7年度目標】（本社）H27年度比40%削減維持（南陽）本社で一括管理のためなし
【中期目標（R3～R7）】（本社）H27年度比40%削減維持



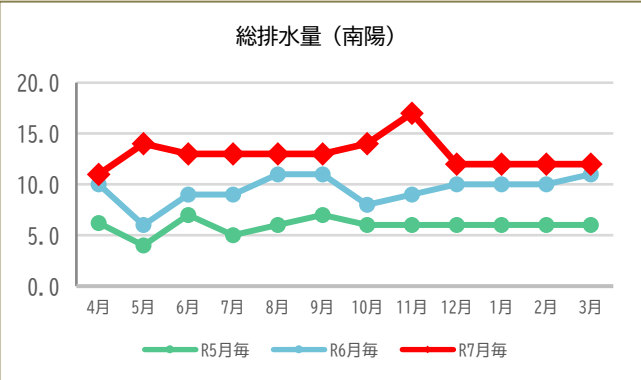
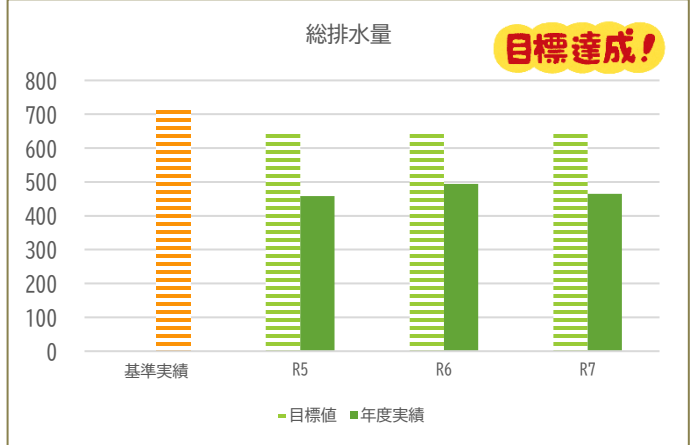
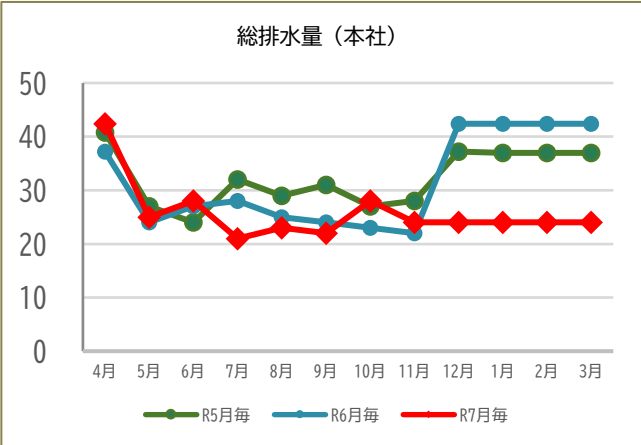
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：3,102kg ■取組期間目標：1,862kg
■取組期間実績：913kg ■削減率：70.5%
■削減量：2,189kg

【取組評価】
例年と同様に適切に管理され、排出量の大きな増減はありませんでした。本社では廃プラスチックや汚泥の排出が一部の月で発生したものの、マニフェストに基づく確実な処理が行われています。南陽営業所では、廃蛍光灯や廃乾電池など少量の排出が見られましたが、いずれも適正にリサイクル・処理されました。全体として、産業廃棄物の排出は必要最小限に抑えられており、適正処理の徹底が継続して実施された一年となりました。

【R8年度目標】本社・南陽：令和6年度1%削減

総排水量

【R7年度目標】（本社）R2年度比10%削減維持（南陽）R2年度比10%削減維持
【中期目標（R3～R7）】（本社）R2年度比10%削減維持（南陽）R2年度比10%削減維持



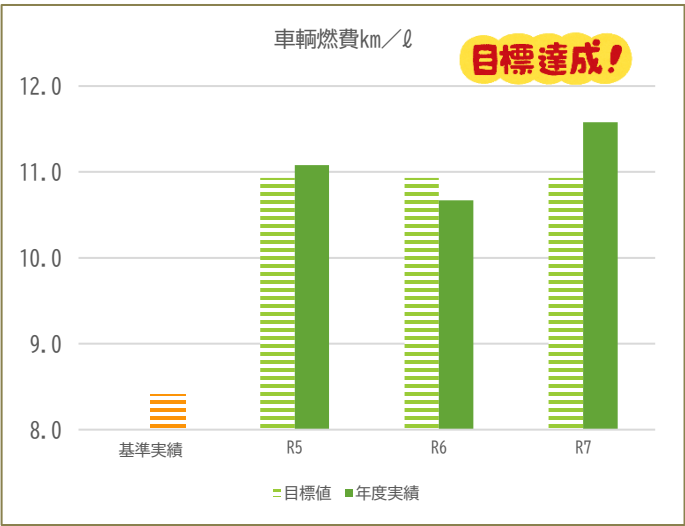
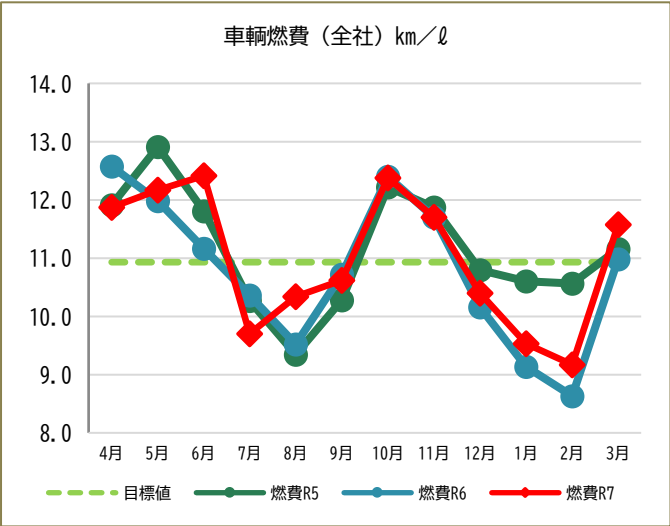
【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：714m³ ■取組期間目標：642m³
■取組期間実績：465m³ ■削減率：34.8%
■削減量：249m³

【取組評価】
令和7年度の水使用量は、年間を通じて安定しており、基準年度比での削減目標を達成しました。冬季は推定使用量を精算したうえでも、総量として抑制されており、節水意識が社員全体に浸透していることがうかがえます。大きな設備変更はないものの、日常的な節水行動の積み重ねが成果として表れた一年でした。

【R8年度目標】本社：R3年度1%削減 南陽：R7年度1%削減

■ 車両燃費

【R7年度目標】（全社）基準年度H27年度より30%燃費向上維持
【中期目標（R3～R7）】（全社）基準年度H27年度より30%燃費向上維持



【取組結果】（取組期間：R7.4～R8.3）
■基準年度実績：8.41km/ℓ
■取組期間目標：10.93km/ℓ
■取組期間実績：11.58km/ℓ
■3.17km/ℓ向上 37.6%燃費向上

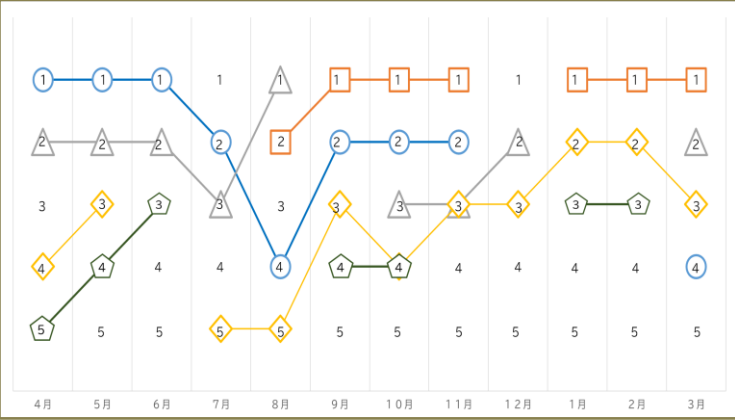
【取組評価】
令和7年度は、車両の入れ替えによりハイブリッド車の比率が高まり、年間を通じて燃費が改善しました。特に冬季は降雪量が少なかったこともあり、燃費の悪化が抑えられています。また、社内で実施している「社有車E-1GP」により、燃費ランキングを共有することで、社員のエコドライブ意識が向上しました。年間ポイントによる表彰制度も定着し、楽しみながら燃費改善に取り組める環境が整っています。これらの取り組みの結果、ガソリン使用量の抑制につながり、CO₂排出量削減にも確実な効果が現れた一年となりました。

【R8年度目標】（全社）基準年度R3年度より1%燃費向上

社有車 E-1GP 2025-2026

社有車E-1GPは、エコドライブの周知と燃費向上を目的として、社有車の燃費を毎月集計し、その月の上位5台をランキング形式で発表する取り組みです。年間では、月ごとの順位にポイント（例：1位＝5点）を付与して集計し、最も燃費の良かった車両を表彰しています。楽しみながら燃費改善に取り組める仕組みとすることで、社員のエコドライブ意識向上につながり、結果としてガソリン使用量の削減や環境負荷の低減に寄与しています。

順位	種別	車名	所属	獲得ポイント
1位	トヨタ アクア	警備3号車	警備課	35pt
2位	三菱 ekワゴン	南陽1号車	南陽営業所	34pt
2位	ホンダ フィット	営業1号車	清掃業務課	34pt
4位	日産NTクリッパー	設備4号車	設備管理課	29pt
5位	ホンダ Nバン	業務4号車	清掃業務課	18pt



令和7年度のエコドライブオブザイヤーに輝いたのは、1位はトヨタ アクア（営業2号車→警備3号車）。前半戦の強さが光り、年間を通して高い燃費を記録しました。2位には三菱 ekワゴン（南陽1号車）がランクイン。南陽営業所の主力車両として、日常業務の中で安定した燃費を発揮しました。特に8月の月間1位は大きなインパクトがありました。同じく、2位ホンダ フィット（営業1号車）でした。夏に納車され常に上位を維持し、圧倒的な安定感でした。4位は日産 NTクリッパー（設備4号車）。設備管理課の巡回業務で使用される車両として、年間を通じて着実にポイントを積み重ねました。5位にはホンダ Nバン（業務4号車）が入りました。

全体の燃費については、年間平均11.58km/ℓとなり、目標値である10.93km/ℓを達成しました。計画的なエコカーへの入れ替えに加え、各車両が日常業務の中で確実にエコドライブを実践していることが確認できました。燃費改善への意識は着実に高まっており、今後の取り組みにも期待が持てる一年となりました。引き続き、安全運転とエコドライブの徹底をお願いいたします。

警備 3号車
営業 1号車
南陽 1号車
設備 4号車
業務 4号車

化学物質使用量（PRTR対象物質）

【R7年度目標】（全社）化学物質（PRTR対象物質）使用ゼロを維持
【中期目標（R3～R7）】（本社）化学物質（PRTR対象物質）使用ゼロを維持

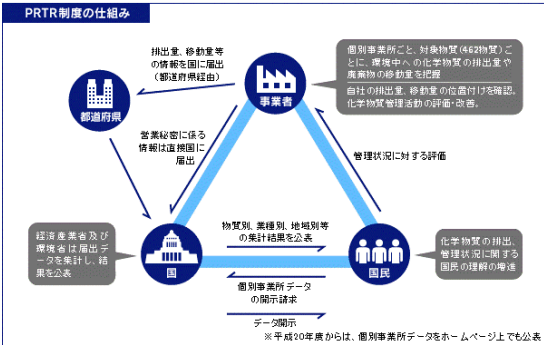
目標達成!

【取組評価】
・清掃業務で使用している洗剤、ワックス、剥離剤は化学物質を一切含まない製品に切替を進め、令和2年度に全て化学物質を含まない製品に切替しました。新しく導入する製品は必ずSDS（安全データシート）を取り寄せ、化学物質を含まないことを確認するように留意いたします。

【令和8年度目標】化学物質（PRTR対象物質）使用ゼロを維持
・2024年の労働安全衛生法改正により、事業者は自律的かつ継続的な化学物質管理を行う責務を負うこととなりました。
・対象物質が拡大する可能性があるため、化学物質管理者を中心に情報を共有し、対象化学物質に関するSDSの入手・作成・配布、容器等への適切なラベル表示を行い、労働者が安全に取り扱えるよう環境を整備いたします。

PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 制度とは
PRTR制度は、「有害な化学物質が、どこから・どれだけ環境に排出・移動しているか」を事業者が自ら把握し、国に報告することで、環境への負荷を“見える化”する制度です。
正式には「特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律（化管法）」に基づいて運用されています。

PRTR制度（METI/経済産業省）より



従業員とその家族で『デコ活』にチャレンジ！～あなたの暮らしが、未来の地球を守ります～

山形県地球温暖化防止活動推進センターの『家庭のアクション』事業は昨年度で一区切りとなりましたが、これまで培ってきた環境配慮の基準は当社の取り組みにしっかり根付いています。そのため令和7年度は、従来の基準をそのまま活かし、エービーエム独自の環境活動として継続実施しました。外部事業の終了に左右されることなく、自主的に行動を続けることで、社員の環境意識向上と地域への貢献をさらに深めてまいります。
『デコ活』とは、脱炭素につながるエコな活動のことです。今回実施したアンケート項目は、「家庭でできる」という前提があるため、比較的簡単な内容ばかりでした。項目ごとに1人あたりのCO₂削減量を推算しました。結果は下記のとおりです。

No.	項目	1人あたり 年間の CO ₂ 削減量 (kg)	実施人数 (従業員家族含 む)	1ヶ月換算 削減量 (kg)	割合 (%)
1	電気冷蔵庫の開閉回数は少なくする。また、開閉時間は短くする。	5kg	253人	104kg	0.6%
2	待機電力の削減。（使わない家電のコンセントを抜く）	60kg	204人	1,004kg	5.5%
3	炊飯ジャーの保温を止める。（電子レンジで温め直す）	23kg	237人	447kg	2.5%
4	LED等高効率照明を導入する。	27kg	170人	376kg	2.1%
5	冷暖房の設定温度を見直す。（冷房の設定温度を1℃高く、暖房の設定温度を1℃低くする）	33kg	203人	549kg	3.0%
6	シャワーの利用時間を短縮する。（1分の短縮）	69kg	140人	792kg	4.3%
7	テレビの視聴時間を減らす。（1日1時間、視聴時間を減らす）	14kg	140人	161kg	0.9%
8	洗濯物はまとめて洗う。	3kg	308人	76kg	0.4%
9	お風呂の残り湯を活用する。（洗濯や庭の水やりに利用する）	7kg	132人	76kg	0.4%
10	賞味期限管理・使い切りによる食品ロス削減。（週1回の見直し）	20kg	223人	366kg	2.0%
11	マイバッグ（エコバッグ）を使用する。（週2回）	58kg	319人	1,517kg	8.3%
12	宅配便は1回で受け取るようにする。（宅配BOXの活用など）	21kg	129人	222kg	1.2%
13	車の利用を控える。（週2回、往復8kmの車の運転を控える）	184kg	65人	981kg	5.4%
14	アイドリングストップを実践する。（1日5分、アイドリングストップを行う）	39kg	178人	569kg	3.1%
15	エコドライブを行う。（例えば、発進時はふんわりアクセルでゆっくりスタートする、車間距離にゆとりをもって加速減速の少ない運転をする）	117kg	230人	2,207kg	12.1%
16	自動車を購入する際には、エコカーなどの次世代自動車を選ぶ。	610kg	58人	2,901kg	15.9%
17	高効率家電への買い替え。（冷蔵庫・エアコンなど）	150kg	33人	406kg	2.2%
18	窓断熱リフォームによる冷暖房効率向上。（居間のみ）	250kg	28人	574kg	3.1%
19	太陽光発電の導入。（自家発電で電力をまかなう）	1,000kg	12人	984kg	5.4%
20	薪・ペレットストーブなどの木質バイオマス燃焼機器を利用する。	346kg	3人	85kg	0.5%
21	ZEH（ゼロエネルギーハウス）や「やまがた省エネ健康住宅」などの断熱・機密性能の高い住宅に住む。	2,551kg	16人	3,347kg	18.4%
22	再エネ由来の電力へ切り替える。	1,978kg	3人	487kg	2.7%
削減されたCO ₂ 量 (kg)				18,229.7480	

①CO₂削減量 18,229kg
②CO₂削減量を杉の植樹本数に換算
（杉は1本当たり1年間で14kg-CO₂のCO₂を吸収すると言われています）
18,229÷14=1302（本）
③広さで換算
（1ha(10,000㎡)当たりの杉の植栽本数は約3,110本）
1,302÷3,110= 0.418（ha）となります。

【取組評価】
今回の活動で削減出来たCO₂排出量を杉の植樹本数に換算すると、約1,302本になりました。
これは、バスケットコート約10面分の広さに杉を植えたこととなります。
（※バスケットコート面積：420㎡）
従業員の約45%が、家庭でできるちょっとした気遣い（アクション）を、わずか1ヶ月間実施しただけで、これだけの成果につながりました。今後も、より多くの社員が参加できるよう働きかけてまいります。

3-3. エコアクション21環境経営目標・中長期環境目標について

令和8年度より、当社は新たな中長期計画期間に入りました。これまでエコアクション21の取り組みを継続して実施してきた結果、環境負荷の低減が着実に進んでおります。今後も環境経営を推進するため、以下の方針に基づき中長期環境目標を設定しました。

【基準年度の設定方法】

環境負荷の削減状況を正確に把握するため、排出量などの数値が最も多かった年度を基準年度として採用します。これは国際的な基準（SBT等）でも一般的な方法であり、削減効果を適切に評価できる点に優れています。また、当社では下に示すとおり一定の削減が進んでいるため、基準年度を適切に設定することで、これまでの取り組みの成果を明確に示すことができます。事業活動には稼働状況や天候などによる変動が生じますが、こうした特性を踏まえつつ継続的な改善を図ってまいります。

【中長期目標の方向性】

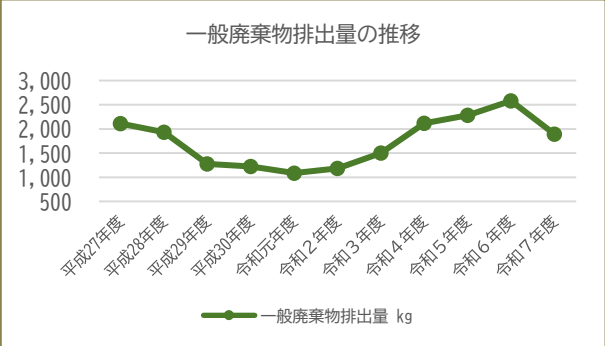
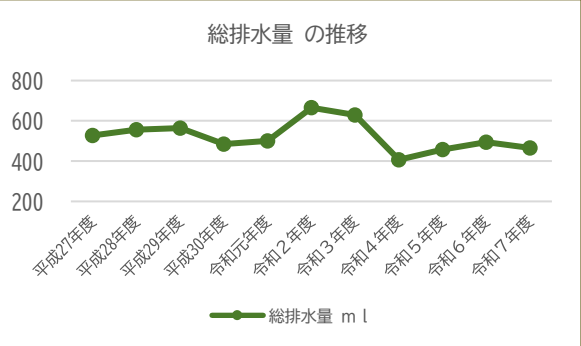
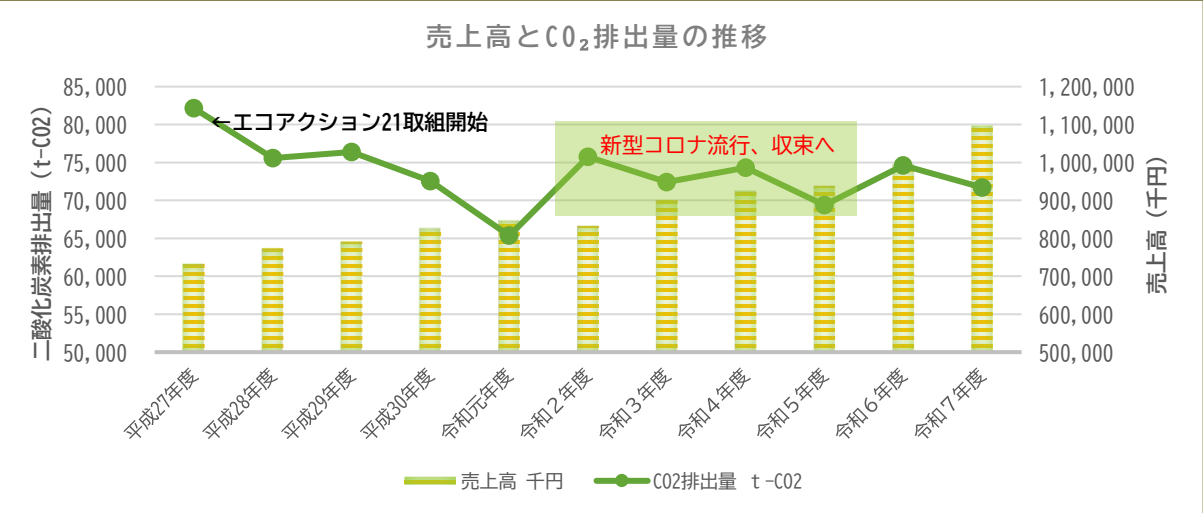
当社は、中長期の環境負荷削減目標として「年1%の削減」を基本方針といたします。事業の安定性を保ちながら着実な改善を進めるための現実的かつ持続可能な目標であり、計画期間の5年間で累計5%の削減を見込んでいます。

また、設備更新や車両更新の際には、省エネ性能の高い機器を優先的に導入し、追加的な削減効果を反映していきます。事業特性上、エネルギー使用量には一定の変動が生じますが、当社は継続的な改善を重ねることで、環境負荷の低減と安定した事業運営の両立を目指します。

【目標達成に向けた主な取り組み】

- ・空調設定温度の適正化
- ・車両のアイドリング抑制
- ・不要照明の削減
- ・稼働状況に応じたエネルギー使用の最適化
- ・車両および設備更新時の省エネ機器の優先導入
- ・節水、節電、ごみの分別、リサイクル、環境配慮型商品の購入

当社はこれらの取り組みを継続し、環境負荷の低減と持続可能な事業運営を両立させることで、地域社会および取引先から信頼される企業として環境経営を推進してまいります。



■ 製品・サービスの環境負荷削減に係る環境目標

1) 社員のスキルアップ・・・スキルアップ研修会の実施

当社では、サービス品質の向上を目的として社員教育を徹底しています。充実した研修制度や社内資格制度を整備し、未経験者であっても専門的な技術を段階的に習得できる環境を提供しています。

清掃研修では、講師が受講者に対してほぼマンツーマンで指導を行い、実践的な教育を実施しています。指導にあたるのは、資格を保有し、各協会で指導員として活躍する経験豊富な先輩社員であり、作業ごとの具体的なポイントを押さえながら丁寧に教育することで、サービス品質の向上につながっています。

また、社内資格検定では、国家資格である「ビルクリーニング技能士」の取得を目指し、段階的に技術を習得できる仕組みを整えています。

資格取得を支援するため、資格未取得の段階から資格手当を支給する「資格取得補助制度」を設け、社員の成長を積極的に後押ししています。

こうした継続的な人材育成と品質向上の取り組みが評価され、米沢市より「米沢品質AWARD」を受賞しました。この受賞は、清掃という“目に見えにくい品質”に対して、地域から高い信頼と評価をいただいた証であり、当社の技術力とサービス品質が確かなものであることを示しています。

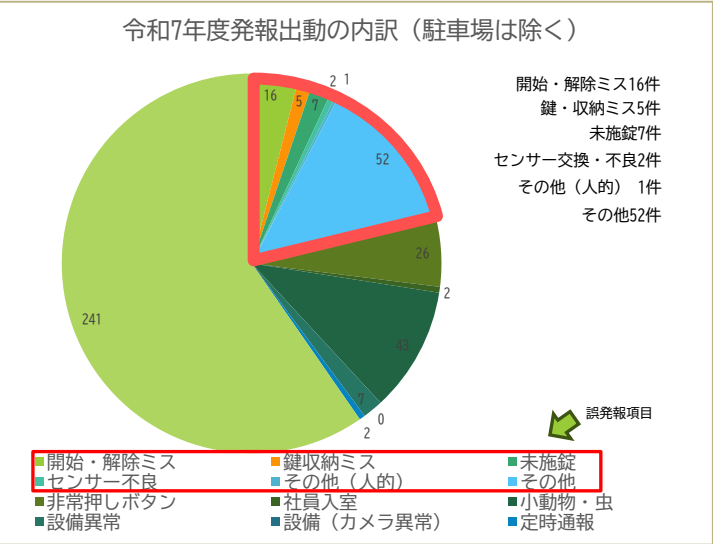
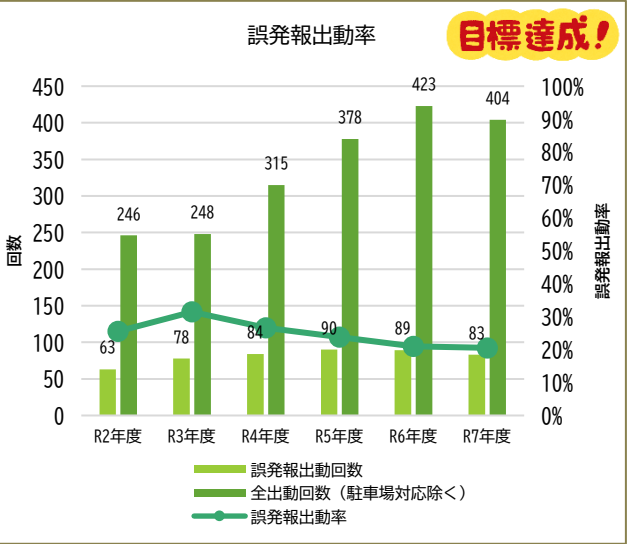
私たちの目標は、お客様に感動を届けること、そして「この仕事はエービーエムにしか頼めない」と言ってもらえるような高いカスタマーロイヤリティの獲得です。その実現に向けて、今後も人材育成と技術力向上に力を注ぎ、より高品質なサービスの提供を目指してまいります。

R7年度 主な研修
清掃従事者研修（年1回）
警備員現任者教育（年1回）
技術講習会（年1回）
新人研修（年2回）
KYT（危険予知トレーニング）（毎月1回）
エコドライブ研修（年1回）
社内資格検定（年1回）希望者
健康セミナー（年1回）WEBで実施

人財育成
感動品質



2) 人的ミス、機器不良による緊急出動回数を減らす（発生件数の把握及び原因分析）



【取組結果】（取組期間：R7.4~R8.3）

- 基準年度実績：26%
- 取組期間目標：23%
- 取組期間実績：20.5%

【取組評価】

出動件数は404件（昨年度比－19件）、誤発報件数は83件（昨年度比－6件）となり、いずれも減少しました。この結果、誤発報出動率も前年より低下しています。一方で、キーボックスへマスターキー等を収納する際の操作ミスによる発報は5件発生し、増加傾向となっています。開始・解除操作のミスによる発報件数は減少しており、機械警備導入時に実施している丁寧な説明や操作指導が効果を上げていているものと考えられます。

【令和8年度目標】 人的ミス、機器不良による緊急出動率を令和3年度実績から1point削減

■ 地域貢献・環境美化・5S活動

1) 会社周辺の清掃活動など

冬期間を除き、毎月第一金曜日の早朝に社屋周辺の清掃活動を実施しています。令和7年度も、4月から11月まで継続して取り組みました。また、令和7年4月24日には、米沢商工会議所が主催する社会貢献清掃事業に参加し、地域の美化活動に協力しました。さらに、当社独自の取り組みとして、南陽市にある指定管理施設「ワトワセンター南陽」から熊野大社周辺をコースとした、スポーツ形式のゴミ拾い大会を9月21日に開催しました。これらの活動は、地域環境の保全に寄与するとともに、社員の環境意識向上や地域とのつながりの強化にもつながっています。当社は今後も地域に根ざした環境貢献活動を継続してまいります。



2) 地域貢献活動

地域貢献事業として、置賜地域の学校で開催される「WAKUWAKUWORK」に参加しています。令和7年度は、6月11日（水）に米沢七中学校、10月8日（水）に南陽高校を訪問し、清掃体験のプログラムを実施しました。「WAKUWAKUWORK」は、企業が学校へ出向き、地域の仕事や働くことの魅力を中学生・高校生へ体験を通して伝える取り組みです。当社では、清掃体験の機会を提供することで、エービーエムの事業内容を地域に広く知っていただくとともに、将来の担い手育成にもつなげています。これらの地域貢献活動は、企業認知度の向上や社会的信頼の獲得に寄与しており、当社の重要なCSR活動の一つとなっています。



3) 5S活動

エコアクション21推進委員会のメンバーは、エコアクション21審査員である福島先生による5S研修を受講し、社内の5S活動に積極的に取り組んでいます。特に、5Sの基本である「整理」「整頓」に重点を置き、作業効率の向上や管理対象備品の削減を着実に進めています。また、安全衛生パトロールにおいては、各現場で整理整頓が確実に実施されていることを確認しており、5Sの取り組みが全社へ広く浸透していることを実感しています。



4) エービーエムエコアクション大賞

エコ活動の裾野を広げる取り組みとして、P11で紹介している「家庭のアクション」を基にした「デコ活」にチャレンジしています。また、社員が家庭で実践できるエコアイデアを募集し、優れた取り組みを表彰する「エービーエムエコアクション大賞」を実施しています。令和7年度は14件のアイデアが寄せられました。厳正な審査の結果、以下のアイデアが大賞を受賞いたしました。

家庭で不要になった衣類やタオルを裁断・縫製し、掃除用ウエスとして再利用しています。惜しみなく使えるのが魅力で、ゴミの削減と有効利用を両立できるのが嬉しいポイント。自分で縫製することで、使い捨てではない「愛着のあるウエス」に仕上がりが、掃除の時間も少し楽しくなります。家庭を持った子供たちにも好評で、みんなでエコに貢献しています。



施設管理課
安部 雅之 さん

フードロスゼロを目指す！
食材はなるべく週末にまとめ買いしています。冷蔵庫のドアにホワイトボードを貼って品名と消費期限をメモしておきます。うっかり期限切れがなくなりました。使い切れなと思ったら下ごしらえしてフリージングします。同じく「買い足すもの」も記入、買い忘れや重複買いを防いでいます。



施設管理課
唐澤 恵子 さん

洗濯洗剤を詰め替えたあとの袋を半分に切り、洗濯ネットに入れ、洗濯物と一緒に洗ってしまえば、袋の中も水ですぐれ、プラゴミとして出せますし、普通に水道で洗ってすぐより手間も時間もかからず、リサイクルも出来、ムダなく使い切れるし一石二鳥!!



サービス支援課
嶋津 優美 さん

4. 環境経営計画と取組結果

二酸化炭素排出量の削減

【評価判定の目安】
○・・・実施済。80%以上の社員が取り組んでいる。80点以上の満足度である。
△・・・一部未実施。50～80%の社員が取り組んでいる。50～80点ぐらいの満足度である。
×・・・未実施。50%未満の社員しか取り組んでいない。50点未満の満足度である。

消費電力の削減	取組状況	備考
室温は暖房期20℃、冷房期28℃で管理	△	
サーキュレーターを稼働させ、室内温度差をなくす	○	
使用していない部屋のエアコンはOFF	○	
定期的にエアコンのフィルターを清掃	○	
不要な照明は消灯	○	

ガソリンの使用量の削減	取組状況	備考
エコドライブの教育研修	○	
燃費・走行距離の把握	○	
5000 km（6ヶ月）ごとにオイル交換	○	定期点検実施
10000 km（1年）ごとにエレメント交換	○	定期点検実施
業務の効率化（運行ルートの管理）	○	

灯油・LPGの削減	取組状況	備考
暖房温度は決められた温度以下で管理する	△	断熱性能が低い
窓の内側に緩衝材を貼り付ける	○	

消費電力の削減	取組状況	備考
クールビズ、ウォームビズの推進	○	
窓にすだれを垂らし、直射日光を防ぐ	○	
窓に緩衝材を貼り付け	○	
電力使用量の見える化（環境負荷データの揭示）	○	

ガソリンの使用量の削減	取組状況	備考
適切な時期でのタイヤ交換	○	4月、11月実施
適切な空気圧の維持	○	
エコタイヤの導入	○	
不要な荷物を載せたままにしない	○	
計画的な低燃費車両への入れ替え	○	

灯油・LPGの削減	取組状況	備考
ウォームビズの徹底	○	
必要最低限の温度で給湯（夏季は使用しない）	○	

廃棄物排出量の削減と適正管理

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
廃棄物置場の整理整頓	○	
不要な資料・カタログ等の辞退・返却	○	
コピー用紙削減（両面コピー、裏紙利用の徹底）	○	

産業廃棄物の削減と適正管理	取組状況	備考
保管場所の管理（安全衛生状態も含む）	○	
マニフェスト・契約書類の管理	○	

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
一般廃棄物の排出量記録	○	
社内の整理整頓	○	

一般廃棄物の削減（リサイクルの推進）	取組状況	備考
委託先の状況確認	○	

化学物質管理

対象化学物資の管理	取組状況	備考
SDSの収集整理・対象製品・使用量の把握	－	R2全ての商品を切替
清掃方法の改善	取組状況	備考
化学物質を使用しない清掃手法の検討・情報収集	－	

対象化学物資の削減	取組状況	備考
対象化学物質含有量の少ない製品の選定	－	

総排水量の削減

水道使用量の削減	取組状況	備考
「節水」の揭示	○	
蛇口元栓の調整（必要最小限の流量量）	○	

水道使用量の削減	取組状況	備考
地下水の適正利用基準の策定と遵守	○	降雪センサー
その他節水対策機器に関する情報収集	○	

その他

社員のスキルアップ	取組状況	備考
資格取得者の増加	○	
社内研修会の開催	○	
テキスト参考書購入補助	○	

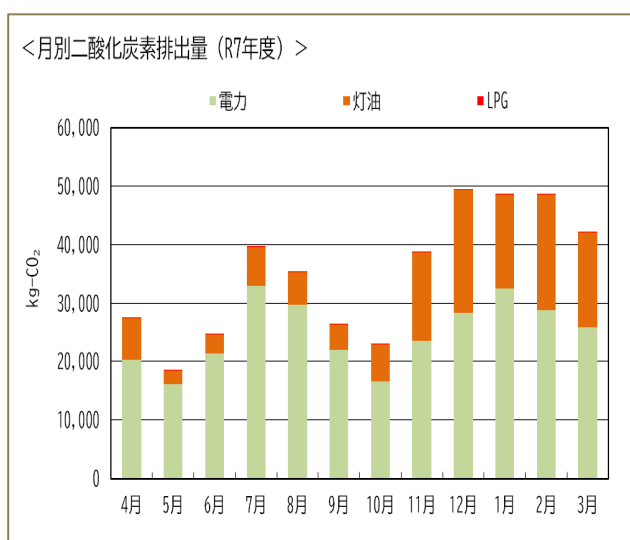
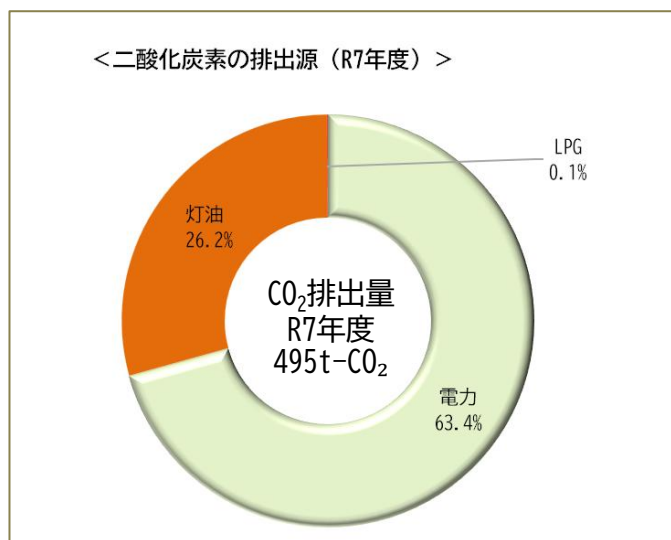
誤発報による緊急出動回数を減らす	取組状況	備考
機器点検の実施	○	
異常発報件数の把握	○	
対策の検討	○	

→→→令和8年度も同様の環境経営計画で取り組みます。

5. 指定管理施設の環境負荷について

5-1. 環境負荷の現状（令和7年度環境負荷自己チェック結果（指定管理）より）

■ 二酸化炭素排出量



※電力使用に係る二酸化炭素排出係数について、令和6年2月から当社の関連企業であるエービーエム・エナジー太陽光発電基地で発電した電力由来の電力をおきたま新電力から供給されている米沢市市民文化会館、米沢市児童会館、米沢市営体育館、南陽市勤労者総合福祉センターは、0.196、置賜総合文化センターのみR5年度東北電力（調整後：0.402）を用いています。

1）指定管理施設における令和7年度のCO₂排出量は合計470,080kg-CO₂となり、前年度比6.2%の減少となりました。これは、平均的な一般家庭約190軒分の年間排出量に相当します。（令和5年度世帯平均年間排出量2.47t-CO₂ 出典：家庭部門のCO₂排出実態統計調査【環境省】）

2）指定管理施設から排出されるCO₂のうち、63.4%は電力使用に伴う294,854kg-CO₂（前年比12.7%減）であり、次いで灯油消費に伴う排出が26.2%、123,171kg-CO₂（前年比5.9%増）となっています。

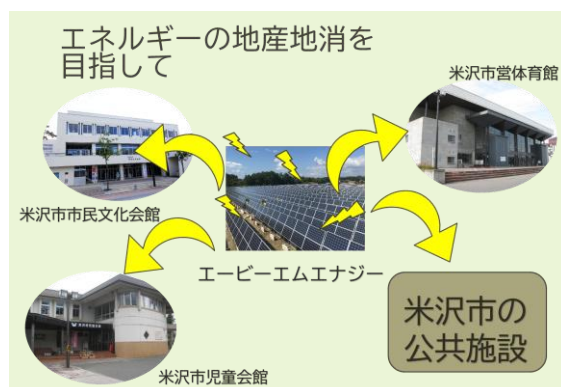
3）電力は事務所の照明や冷暖房の稼働に使用しています。また、灯油は空調機ボイラー運転や事務所の暖房に、LPGは事務所給湯に使用されています。

4）月別のCO₂排出量は、7・8月の夏期および11月～3月の冬期（降雪期）に多くなっています。これは、冷暖房用空調機の使用機会が増えることに加え、融雪用地下水汲み上げポンプ（米沢市営体育館）などの稼働、さらに暖房として灯油等の消費量が増加するためです。

5）以上のことから、特に電力使用量の削減が重点課題となります。施設照明のLED化を引き続き推進してまいります。なお、置賜総合文化センターは指定管理施設ではあるものの、米沢市教育委員会をはじめとした外郭団体が入居しており、電気契約も米沢市名義となっています。このため、指定管理者だけの努力では使用量削減が困難であり、入居者および利用者の理解と協力が不可欠となります。

7 エネルギーの地産地消への取り組み

株式会社エービーエムでは、地域で生み出された再生可能エネルギーを施設運営に活用する「エネルギーの地産地消」に取り組んでいます。指定管理施設においても、エービーエムエナジーの太陽光発電などによる電力を利用することで、CO₂排出量の削減やエネルギーコストの安定化に寄与しています。こうした取り組みは、地域内でのエネルギー循環を促進し、環境負荷の低減と地域貢献の両立につながっています。当社は今後も、地域の再生可能エネルギーを活用した持続可能な施設運営を推進してまいります。



※エービーエムエナジーの発電所はFIT（固定価格買取制度）電源による特定卸電力供給のため、太陽光発電はCO₂排出量は0ですが、環境価値は電力と分離した形となっており、そのため、おきたま新電力からの電力のCO₂排出係数は0でなく0.196となります。なお、令和7年度より、置賜総合文化センターもおきたま新電力からの電力供給となりました。

■ 廃棄物排出量

■一般廃棄物 可燃ごみや紙類（資源回収対象）については、行政の分別ルールに従い、各施設で排出量を把握したうえで適切に処理しています。可燃ごみが最も多く3,715kg、次いで紙類（再生資源）が2,797kgとなりました。特に、米沢市職員が入居している置賜総合文化センターでは、可燃ごみ2,502kg、紙類2,330kgと、全体の約8割を占めています。全体のリサイクル率は49.7%でした。

■産業廃棄物 最も多かったのは廃蛍光灯で13.9kgとなり、昨年度より減少しました。施設のLED化が進んでいることが要因と考えられます。特に市営体育館では、アリーナ照明のLED化を計画的に進めており、総入れ替えはR8年度に完了予定です。なお、置賜総合文化センターでは米沢市のごみ処理ルールに従い、蛍光灯は産業廃棄物ではなく不燃ごみとして処分しています。

社会貢献活動

エコキャップ推進運動について



米沢市児童会館では、平成25年に開館30周年を記念してペットボトルのキャップを使ったキャップアートを作成したことをきっかけに、毎年、ペットボトルキャップを集めてNPO法人エコキャップ推進協会に提供しております。

エコキャップ運動は、リサイクルの促進、CO₂の削減、売却益で発展途上国の医療支援の発足時は3つの目的でしたが、リサイクルの過程で雇用創出ができることがわかり、現在はこの3つの目的に加えて、障がい者・高齢者雇用促進などの4つの目的となっています。

<https://ecocap.or.jp/katudo/><https://ecocap.or.jp/katudo/>引用



■ 総排水量（水使用量）

米沢市営体育館および置賜総合文化センターでは、融雪のため地下水を利用していますが、その使用量は把握できていません。水道については、すべて生活用水として使用しています。令和7年度の水道使用量は合計11,018m³となり、昨年度より増加しました。これは、文化会館および体育館の稼働が増えていることが要因と考えられます。なお、放流先はすべて下水となっています。

■ 化学物質使用量（購入量）

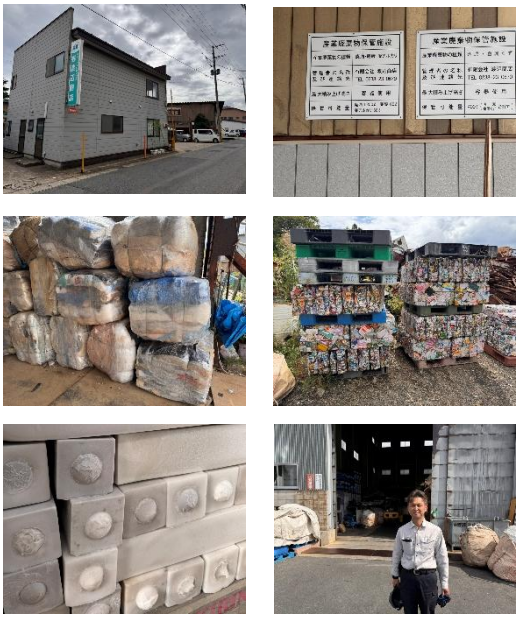


清掃業務で使用する洗剤や剥離剤については、以前はPRTR成分を含有する製品を使用していましたが、令和7年度もPRTR成分を含有する洗剤および剥離剤は使用していません。

6. 環境関連法規等の遵守状況、訴訟等の有無

環境関連法規遵守については、当社および指定管理施設に適用される環境関連法規及び条例の一覧を作成し、年1回遵守状況を確認し、必要に応じて変更・追加・改善しております。本年度、自社で確認した結果、違反・訴訟はありませんでした。また、関係当局よりの違反などの指摘はこれまでありません。

法規制	遵守状況
環境基本法等	○
フロン排出抑制法	○
水質汚濁防止法	○
浄化槽法	○
廃棄物処理法	○
消防法	○
置賜広域行政事務組合火災予防条例	○
下水道法	○
自動車リサイクル法	○
家電リサイクル法	○
大気汚染防止法	○
ボイラー及び圧力容器安全規則	○



令和7年度 現地確認（有限会社渡辺商店）

7. 代表者による全体評価と見直し

当社はエコアクション21の認証登録から10年目を迎え、令和7年度は節目の年となりました。これまで、エコアクション21推進委員会を中心に環境経営活動を着実に積み重ねてきましたが、昨年度の中間審査においても大きな指摘事項はなく、環境経営システムが全社で安定的に機能していることが改めて確認されました。社員一人ひとりの取り組みが、組織としての力となり、10年という年月を支えてきたことを実感しております。

また、令和7年度は当社の品質への取り組みが評価され「米沢品質AWARD」を受賞いたしました。日々の清掃業務や5S活動、地域との協働を含め、社員が積み重ねてきた努力が形となったものであり、環境経営と品質向上の両輪が確かな成果につながっていることを嬉しく思います。

令和7年度は、これまでの活動を継続するとともに、次の10年を見据えた取り組みを進めました。

- 【環境負荷低減への取り組み】
- ・ 社用車のエコカーへの計画的な切り替えを継続し、燃料使用量の削減を推進。
 - ・ エコドライブ研修を継続実施し、日常の運転行動の改善を定着。
 - ・ 節水・節ガス、私用ゴミの持ち帰り徹底など、日常業務における環境配慮を継続して強化。
- 【廃棄物管理と情報発信】
- ・ 作業着リニューアル後の排出量管理を適正に行い、廃棄物の適切な処理を継続。
 - ・ 社内広報誌「エーコロジー」を通じて、環境活動の共有と意識向上を図り、組織内の情報循環を促進。
- 【組織的な環境経営の推進】
- ・ 委託先視察を継続し、取引先との連携を深めながら、環境配慮の視点を共有。
 - ・ 新入社員ガイダンスにおける環境教育を継続し、環境意識の継承を確実に実施。
 - ・ PDCAサイクルを着実に運用し、環境経営システムの維持・改善を継続。
- 【地域社会との連携・貢献】
- ・ 毎月第一金曜日の社屋周辺清掃を継続し、地域への貢献を積み重ね。
 - ・ 米沢商工会議所建設部会主催の清掃事業への参加を継続し、地域との協働を強化。
 - ・ 「エコアクション大賞」による社員のアイデア表彰を継続し、社内の創意工夫を促進。

10年という節目を迎え、環境経営は単なる取り組みではなく、当社の文化として根付きつつあります。これまで支えてくださった社員の皆さんに深く感謝するとともに、次の10年に向けて、地域社会との連携をさらに深め、持続可能な社会の実現に向けた歩みを続けてまいります。

株式会社イービーエム
代表取締役社長 斎藤 正則



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

株式会社エービーエムは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

環境経営レポートをご希望の方には、無料でお渡ししております。ご希望の際は、本社窓口までお申し出いただくか、下記までご連絡ください。

また、弊社ホームページ（<https://www.y-abm.co.jp/>）およびエコアクション21中央事務局のホームページ（<http://www.ea21.jp/>）でもご覧いただけます。

〒992-0003 山形県米沢市窪田町窪田584-2
TEL0238-37-5733 FAX0238-37-2822